郡山の歴史(2014年10月発行)

目次

《原始》

1	郡山に住み始めた人びと ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	移動から定住生活へ	3
3	縄文人の食生活	5
4	縄文時代の広域交流	7
5	採集·狩猟と稲作	9

《古代》

6	古墳時代のはじまり	11
7	中期の阿武隈川流域	13
8	後期そして終末の古墳	15
9	奈良・平安時代の遺跡と郷	17
10)清水台遺跡発掘調査の成果と課題	19
11	安積郡の成立	21
12	と安積郡の古代豪族	23
13	3 安積山と田村麻呂	25
14	1 仏と神	27

《中世》

15	郡山の中世遺跡	29
16	安積郡地頭伊東氏と田村荘司田村氏	31
17	佐々河落城と伊東氏の動向	33
18	宇津峯合戦	35
19	篠川御所足利満直	37
20	安積氏の退転	39
21	安積氏名代の片平居止	41

22	御代田合戦	43
23	大内定綱と片平親綱	45
24	郡山合戦	47
25	高玉城撫で切り	49
26	安積・田村の仕置	51

《近世》

27	会津領時代の郡山地方	53
28	二本松藩と会津藩の成立	55
29	三春藩・守山藩・幕府領等の成立	57
30	安積三組の代官所と郷村支配	59
31	守山藩と守山陣屋支配	61
32	いりあいまぐさば 入会秣場と争論	63
33	年貢の徴収と農民の負担	65
34	奥州街道の建設と安積七宿	67
35	湖南地方の街道と宿駅	69
36	自然災害と飢饉	71
37	***** 寛延一揆と浅川騒動	73
38	村の耕地と用水	75
39	郡山地方の産業	77
40	郡山宿の繁栄と町への昇格	79
41	年貢米の江戸廻米と地払い	81
42	阿武隈川の洪水と石渕金	83
43	藩財政の窮乏と村々の負担	85
44	村の衰微と赤子養育仕法	87
45	交通の発達と助郷制	89

郡山の歴史(2014年10月発行)

46	庶民の行楽(湯治と参詣)	91
47	かけい 駈入りと駆込み寺 ······	93
4 8	藩校と寺子屋	95
49	安積艮斎とその門人	97
50	郡山地方の近世文化(仏教)	99
51	郡山地方の近世文化(俳諧・学問・美術)	101
52	『しん 戊辰戦争と郡山宿	103

《代近》

53	新政権の発足と郡山 焼土から復興へ	105
54	大区小区制から地方三新法体制へ	107
55	「旧来ノ歳入ヲ減ゼザル」税制改革	109
56	自由民権運動と安積郡・田村郡	111
57	大槻原開墾と桑野村の誕生	113
58	安積開拓と安積疏水の開さく	115
59	村に学校ができた	117
60	新しい町村の出発	119
61	農業の近代化と商工業の発達	121
62	交通・運輸・通信業の発達	123
63	水道事業と電気事業の展開	125
64	日清・日露戦争と郡山地方	127
65	明治三十五年・三十八年の災害と凶作	129
66	教育制度の展開	131
67	帝国議会と郡山政界の動き	133
68	地主・小作制の展開	135
69	大正デモクラシーと米騒動	137
70	商工業都市郡山の発展と市制施行	139
71	普通選挙と郡山地方の政治・社会	141
72	近代郡山の文化活動(1)	143
73	近代郡山の文化活動(2)	145
74	東部電力争議と電気料金値下げの市民運動	147
75	昭和恐慌下の郡山地方	149

76	アジア・太平洋戦争と郡山(1)	151
77	アジア・太平洋戦争と郡山(2)	153
78	郡山の空襲そして終戦	155

《現代》

79	復興への道	157
80	民主政治のはじまりと労働運動	159
81	農地改革と産業の振興	161
82	新教育制度と社会文化活動	163
83	郡山市勢の進展	165
84	新産業指定都市 郡山	167
85	農業基盤の変化	169
86	新産業都市指定後の郡山(1)	171
87	新産業都市指定後の郡山(2)	173
88	公害対策	175
89	高度経済成長以降の郡山(政治)	177
90	郡山経済とバブル崩壊後の郡山	179
91	教育文化の進展と市民の文化活動	181
92	拡張する市街地	183
93	産業構造の変化	185
94	市の施設と市民生活	187
95	郡山地域の自然災害	189
96	洪水を減らした阿武隈川の大改修	191
97	教育、文化施設の充実	193
98	東日本大震災と原発事故災害(1)	195
99	東日本大震災と原発事故災害(2)	197

郡山の歴史年表	 201
市町村分合沿革	 213